

(一社) 大分測協・愛測協 第2回意見交換会 報告書

**(一社) 大分県測量設計コンサルタンツ協会・(一社) 愛知県測量設計業協会の意見交換会
～BCP策定に関する意見交換会～**



平成 29 年 5 月 12 日

一般社団法人 愛知県測量設計業協会 危機管理委員会

(一社) 愛測協・大分測協BCP策定に関する意見交換会の議事録

主 題：(一社) 愛知県測量設計業協会・(一社) 大分県測量設計コンサルタンツ協会の意見
交換会 ～BCP策定に関する意見交換会～

日 時：平成 29 年 5 月 12 日 (金) 13:40～16:40

場 所：ホルトホール大分 4階 410 会議室

参加者：【一般社団法人 愛知県測量設計業協会】8名

- (敬称略) ①会 長 今村 鐘年 (中部復建 (株))
②副会長 青木 拓生 ((株) 拓工)
③副会長 梶川 洋 ((株) 梶川土木コンサルタント)
④危機管理委員会委員長 岩田 敏彦 (中日本建設コンサルタント (株))
⑤ 同 副委員長 早川 正喜 (早川都市計画 (株))
⑥ 同 副委員長 山本 成竜 ((株) 愛河調査設計)
⑦ 同 委員 濱田 常雄 ((株) 新日)
⑧ 同 委員 岸本 悦典 ((株) アイエスシイ)

【一般社団法人 大分県測量設計コンサルタンツ協会】 12名

- ①理 事 (総務委員長) 馬原 清 (東洋測量設計 (株))
②理事 (技術研修委員長) 甲斐 筆美 (協同エンジニアリング (株))
③理 事 (広報委員長) 吉田 靖 ((株) 日建コンサルタント)
④理 事 (経営委員長) 吉武 隆 (九豊コンサルタント (株))
⑤BCP・WG 特別委員会副委員長 平川 昌寛 (九建設計 (株))
⑥ 同 委員 兼田 裕士 ((株) 兼田コンサルタント)
⑦ 同 委員 丹生 博文 ((株) 富士設計)
⑧ 同 委員 渡邊 秀行 ((株) キョウワ)
⑨ 同 委員 小野 浩信 (公月測量設計 (株))
⑩ 同 委員 伊藤 良浩 ((株) 東豊開発コンサルタント)
⑫ 同 委員 波多野 健志 (九州建設コンサルタント (株))

【新聞社 (取材)】2社2名 / 大分建設新聞・大分合同新聞



参加者一同

0. 議事進行役である小野委員（大分測協）より意見交換会開会の辞

- ①意見交換会開催のお礼と意見交換会開催趣旨説明。
- ②今山会長（大分測協会長／BCP・WG 特別委員長／九州建設コンサルタント(株)）の体調不良による本会欠席の報告とお詫び。

1. 愛測協を代表して 今村会長より挨拶

- ①意見交換会開催のお礼等。
- ②愛測協BCP策定に至る経緯について概略説明。

2. 大分測協を代表して 吉武理事より挨拶

- ①今山会長に代わって本意見交換会開催、及び愛測協訪問（H28.7.27）のお礼等。
- ②今山会長あいさつ文（意見交換会開催のお礼と本会欠席のお詫び等）の代読。



今村会長あいさつ



吉武理事あいさつ

3. 大分測協→愛測協の順で各自自己紹介

4. 梶川副会長より 愛測協の組織と活動について説明

- ①愛測協の概要（組織の概要、経緯・沿革、組織、会員等について）
- ②愛測協の28年度活動報告

（要望活動の実施、県施策及び産・官・学A・Iの取組み等研修会開催、「平成28年度熊本地震」義援金寄託、測量競技会後援、災害緊急時協力体制のPR活動実施、地図教室（測量の日記念行事）実施、他測協との意見交換会実施（大分測協、岡山測協）、災害等緊急時における連絡模擬訓練、シビルエンジニアリングA・I開催、愛知県建設部との定例勉強会、測量研修会等に講師派遣、全員研修会の開催、コンプライアンス講習会（独占禁止法順守講習会）開催、

「テクノアイ」、「方位」の刊行・配布、賀詞交歓会、営業研修会、イブニングサロンへの参加、関係団体との連携について)



梶川副委員長による愛測協の説明

5. 吉田理事より 大分測協の組織と活動について説明

①大分測協の概要（組織の概要、委員会（総務委員会、広報委員会、労務厚生委員会、技術研修委員会、経営委員会、砂防基礎調査特別委員会、BCP・WG 特別委員会、創立40周年記念行事実行委員会等について）

②大分測協の実施事業等の報告

（地理空間情報活用推進に関する大分産官学連携セミナー開催、総合評価方式時代の測量技術者スキルアップセミナー開催、i-Construction/3次元CAD研修会、大分川ダム見学会開催、独占禁止法順守に関する講習会開催、研修講師派遣、平成28年度県政（国政）予算等に関する要望説明懇談会、国土交通省大分県4事務所・国土交通省九州地方整備局、国土交通省大分河川国道事務所・大分県・大分建設業協会土木委員との意見交換会、災害協定締結、建設業者と大分市技術職員研修会、



吉田理事による大分測協の説明

大分市建築ルールを守る推進協議会、平成28年度4月地震大分県被災地寄附金、九州地区協議会経営協議会・事業運営推進会議、実態調査と資料収集、会員相互の親睦等について)

6, 平川副委員長より 大分測協BCP策定の取り組み進捗状況について説明

①これまでの活動状況について報告

- ・愛測協との意見交換会（2016.7.27）を起点に大分県版BCP策定を開始。愛測協提供の「BCPモデル測量設計業」が有益であった。愛知県版を踏襲し、大分県における地震、津波、液状化の被害想定エリアを明示。
- ・2016.10.14「BCPワーキンググループ特別委員会」正式発足。
- ・2016.12.15「BCP策定セミナー」実施。大分県防災危機管理課長、熊本・大分地震で被災した（一社）熊本県測量設計コンサルタント協会理事吉田氏の講演。



平川副委員長より大分測協BCPの説明

吉田氏の講演は、熊本・大分地震を実体験した臨場感ある講演であった。同社社員に対して実施した被災アンケートは震災前後の危機意識の変化が顕著で、大分測協BCP策定に向けた会員相互の意識付けに有益であった。

- ・2017.3.3「BCP策定ワークショップおよび安否確認システムデモンストレーション」の開催

BCP策定における会員の疑問点等をアンケートして状況把握。緊急時の連絡方法が課題で、大分測協としては安否確認システム「サイボウズスタートアップス社」を選定予定。機能多彩と安価が主な選定理由。サイボウズスタートアップス社採用における協会のスケールメリット（ユーザー数増によるコスト減、協会員家族への展開）

②今後の活動について

- ・安否確認システム導入に向けて詳細検討中
会員購入希望ユーザー数は約830名。個人情報や運用方法が課題。
- ・BCP策定状況の確認
策定状況を随時ヒアリングし、必要に応じてワークショップを開催。

7-1, 早川副委員長より（愛測協）BCP策定の経緯と完成計画書について説明

①協会BCP策定までの経緯を説明

- ・会員BCP策定の経緯
- ・協会BCPおよびタイムライン策定の経緯
- ・危機管理委員会に2つの部会を設置して進めた主な理由について
(岩田委員長よりスピード感の違い等補足説明あり)

②事業継続計画（協会BCP）第1版の説明（本編および様式集）

- ・2017.4.1初版発行、制定
- ・方針の策定

事業継続計画の基本方針策定に加え、事業継続マネジメント（BCM）実施体制の構築が重要である。

- ・ 検討対象とする災害の特定→「南海トラフ巨大地震」
- ・ 影響度評価における対応時間の想定
 - 一次支援（被災状況把握）要請：「発災後 3 日目から」。
 - 二次支援（災害応急対策支援）要請：「発災後 7 日目から」。
- ・ 緊急時優先業務の決定 「愛知県内における災害協定に基づく災害査定業務」
- ・ 目標稼働時間 「3 日（72 時間）以内」
- ・ 被害想定
 - インフラ・ライフライン、地域別、震度分布、液状化危険分布、浸水想定域。
- ・ 重要な要素の抽出
 - 「災害対策本部の機能確保」「災害査定業務の対応可能な会員の確保と適正配置」
 - 「広域的支援体制や地区別相互支援体制の確立」「情報システムの継続・回復（情報収集、安否確認システムなど）」「インフラ、ライフライン等の復旧」。
- ・ 安否確認と安全確保
 - 安否確認システムでの情報内容と管理者権限順位について。
- ・ 指揮命令系統の明確化
 - BCP 発動基準と権限の優先順位。
- ・ 災害対策本部の機能確保
 - 権限移譲
- ・ 対外的な情報発信および情報共有
- ・ 各種情報のバックアップ
- ・ 災害査定業務への対応
- ・ 他測協、他団体との連携
- ・ 事業継続とともに求められるもの
 - 協会事務局の被害軽減、二次被害の防止、協会・会員としての社会貢献、備蓄品等
- ・ 事業継続計画に従った対応の実施
 - 事前対策計画、災害対応に向けての流れ（タイムライン）、緊急時行動マニュアル、時系列記録表など
- ・ 災害時のリーダーシップの重要性
- ・ 事業継続マネジメント（BCM）の PDCA サイクルを回す
 - 教育訓練の実施、点検及び是正措置、見直し・改善



早川副委員長より愛測協 BCP の説明

7-2, 岩田委員長より 愛測協タイムラインについて説明

- ①【様式集 12.1】災害対応に向けての流れ（タイムライン）その1、その2の説明
- ・愛知県との災害後1週間の動きに着目した（タイムライン）その2
 - ・愛測協3日目以降の具体の動き
 - ・緊急時出動要請に関し、協会の理事であり、各社代表（社長）であることのジレンマ。
優先度、優先順位。
 - ・愛知県と建コン協、愛測協の関わり、それぞれの役割など。建コン協会員と測協会員を重複する時の課題など。



岩田委員長よりタイムラインの説明

8, 両協会のBCP策定における質疑・応答など

Q1（愛測協）

安否確認システムは大分測協←→会員会社
←→会員家族まで利用可能か。

A1（大分測協）

システム変更で対応可能。基本は大分測協と
会員会社。

Q2（大分測協）

愛測協システムはどうか。

A2（愛測協）

愛測協では愛測協←→会員会社への
自動配信。会員家族は各社の責。具体システ
ム稼働により課題抽出。

Q3（愛測協）

システム購入希望ユーザー830名のBCP周知度は。

A3（大分測協）

会員会社代表（関係者）への周知。ユーザー数は、各社BCP関係者が判断（社により
従業員まで周知、確認）。ユーザー数＝希望会社×従業員。

法人46社に対しては協会負担（46ユーザー）、それ以外が各社家族等ユーザー数。

1ユーザーに対して3つのアドレス。

Q4（大分測協）

愛測協では1ユーザーでのアドレス数は。

A4（愛測協）

大分測協システムと同じ3アドレスまで可能。ただし、個人情報の課題もある。



青木副会長からの質疑

A4-2（大分測協）

アドレス提示は測協各社の使命（趣旨を的確に説明した上で）。

Q5（愛測協）

建コン会員と測協会員数は。

A5（大分測協）

建コン協に属する 20 社は、全社大分測協（46 社）に属している。
九州はだいたいダブっている。

A5-2（愛測協）

愛知県は支店業者が多く、会員中 1/3 程度、20 社くらいが兼務。

Q6（大分測協）

ステークホルダーである愛知県と共同で災害訓練等実施しているか。

A6（愛測協）

愛測協では今年から愛知県と共同実施を計画している。
名古屋市名測協では 8～9 年前から名古屋市職員と共同実施している。

Q7（大分測協）

緊急時の県からの第一報は。会長への速報、連絡番号等の個人情報。

A7（愛測協）

地区協の正副会長携帯番号は共有している。

Q8（大分測協）

ステークホルダーとの交通整理は。

A8（愛測協）

幹事会社が主体となり、状況に応じて幹事会社が調整している。自治体ごとに各社対応者、人員を通知している。実際問題として、災害時に対応できない者もいるため、各社で対応者を調整する。

Q9（大分測協）

ステークホルダーとして他県の測協に依頼する場合、課題となるのは費用だが。
余談だが大分県では歩掛が安い。

A9（愛測協）

愛測協でも同様に課題となっている。

Q10（愛測協）

災害支援協力では専門性も問題となるが、大分測協は測量会社と設計会社の割合は。

A10（大分測協）

大分測協に属する 46 社は、測量も設計も両方可。

A10-2（愛測協）

愛測協では、設計対応不可の測量専門会社も半数程度協会会員として属しているのが大分測協との違いである。

Q-11（大分測協）

災害支援の場合、定型業務の履行期間、工期が査定等と重複する時の緩和措置等あるか。
大分県ではオフィシャルな緩和措置が無い。

A-11（愛測協）

愛知県も同様。ただし、国交省関連は緩和措置あり。先日訪問した宮城測協も同様の問題を抱えていた。

9. 馬原理事より 大分県における災害について説明

①災害協定の締結状況

- ・全国測量設計業協会連合会九州地区協議会（九州 7 県） H26.10.23
- ・九州地方整備局（九州 7 県） H26.12.12
- ・津久見市 H28.11.30
- ・大分県土木建築部 H29.1.18
- ・臼杵市 H29.3.24

②災害協定の特徴

- ・発災 3 日後から初動調査（2,3 日）のみが協定の内容。調査後の災害査定は別途。
- ・発災から 3 日目までは建設業協会が対応。その情報が測協にくる。
- ・初動調査は無償、サービス。

③災害講習会（鹿児島）

- ・災害講習会へ参加しないと災害業務に携われない。講習参加証や腕章で証明。鹿児島測協は公益法人。

④支援要請

- ・熊本、大分災害でも他県協の受け入れが課題であった。また、受け入れに関わる歩掛が課題で、大分県は特に安い。九州統一単価の採用を要望中。

⑤農地災害

- ・特に農地災害単価が安く、引き受け手が無い。
- ・県との災害協定締結を機に、農地災害の歩掛変更を要望中。
- ・自治体と土地連の締結が問題。

⑥九州の BCP 策定状況

- ・九州 7 県、どこも未策定。大分県が最も進んでいる。

⑦大分測協の大規模災害時の連絡体制

- ・46 社を地域ごとに 4 ブロック分割。それぞれ正副責任者を配置。
- ・会長→災害担当理事→ブロック正副責任者→ブロック各社
ただし、締結後の机上連絡体制でもあるため、実地による課題等を抽出する必要あり。
- ・県締結時の実施要領があるため、愛測協にも提供する。



馬原理事より大分県の災害について説明

10, 岩田委員長より 愛知・大分両県での支援協力等について説明

- ・愛測協より「大災害に備えた愛知県及び大分県測協の支援協力に関する覚書（案）」について説明。
- ・平常時の講習会や災害対応の取組み状況等情報交換、技術共有が有益。

10-2, 馬原理事より 愛知・大分両県での支援協力等について回答

- ・「大災害に備えた愛知県及び大分県測協の支援協力に関する覚書（案）」については、大分測協理事会で内諾を得ている。理事会としては、協定ではなく「覚書」がベスト。
- ・九州では7県持ち回りで災害講習会を実施している。

10-3, 今村会長より 支援協力覚書について

- ・本日の馬原理事からの回答を持ち帰り、愛測協理事会として、(案)を取った「大災害に備えた愛知県及び大分県測協の支援協力に関する覚書」として正式文書を取り交わしたい。

11-1, 青木副会長より 意見交換会のお礼

- ・意見交換会へのお礼。
- ・BCPは大分測協よりも先行して作成しているが、具体災害等の経験が少ない。本日、経験豊富な大分測協BCPの取組み内容をお聞きし参考になった。
- ・本日の意見交換会をもとに、愛知県版協会BCPをブラッシュアップしていきたい。

11-2, 甲斐理事より 意見交換会のお礼

- ・意見交換会へのお礼。
 - ・昨年の愛測協との意見交換会に刺激され、昨年7月よりワーキンググループの中で取り組んでいる。今後は、本日お聞きした愛知県版協会BCPを勉強して、大分県版協会BCPを作成していくのでご指導お願いします。
- 以上